

2004(平成16)年12月24日

同窓会報

■発行／同窓会事務局 〒935-8535 氷見市幸町17-1 氷見高等学校内 Tel0766-74-0335 Fax0766-72-8136
ホームページアドレス <http://www.tym.ed.jp/sc357/>



ごあいさつ

同窓会会长 稲積佐一



会員の皆様方には、日頃母校発展の為、何かとご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、恒例による16年度の総会も無事終了させて頂きました、大変有難うございました。更に、関東支部総会にも出席させて頂きました。共に80周年記念事業の推進に、ご協力をお願い致しました處でございます。

又、関西支部会総会に致しましても、17年4月には開催致される予定の由、その席でも宜しくお願ひ申し上げる次第でございます。又前年度より進めて参りました会員名簿の発行も、3月下旬から、お手元に届くと思っております。

尚、記念事業の内容が決定致しましたので、現在はその具体的な段取りの検討など、その実現に向けて一歩一歩の前進を見て居る處でございます。募金活動を初めと致しまして、行事諸般に渡り、確実に推進出来ます様ご協力をお願い申し上げ、皆様方と共に母校発展の為、80周年記念事業の遂行に邁進致したいと思いますので、一層のご協力をお願い申し上げます。

終りになりましたが、皆様方のご健勝とご繁栄をご祈念申し上げ挨拶と致します。

希望にあふれる七百余名

校長 小幡勝義



同窓会の皆様には、日ごろ本校教育の充実・発展のために格段のご後援を賜り、誠にありがとうございます。上掲写真で元気な姿を見せる七百余名の本校生徒は、創校時からの校風「文武両道」を堅持し、勉学に部活動に打ち込んでいます。特に、すべての元になる学習面にはひときわ力を注ぎ、学力向上のため日々努力しております。

さて、本校は平成18年に創立80周年を迎えることになり、このたび同窓会の皆様のご厚意により幾多の記念事業を計画していただきましたことに感謝申し上げます。これらに報いるべく、これからも伝統を踏まえ、時代にも即応し、さらに将来も見据え、本校発展のために教職員、生徒一丸となって頑張る所存でございます。

更なるご支援ご鞭撻をお願い申し上げ、皆様方の益々のご発展を祈念して、ご挨拶といたします。

平成16年度 同窓会行事

- 平成16年 4月18日 (日) 同窓会関西支部 第20回総会
 7月2日 (金) 同窓会第1回定例役員会
 9月18日 (土) 第37回同窓会総会
 次第 1. 会長挨拶 2. 校長挨拶 3. 職員紹介
 4. 審議事項 (1) 平成15年度事業報告
 (2) 平成15年度決算報告
 (3) 平成15年度監査報告
 (4) 役員改選
 (5) 平成16年度事業案審議
 (6) 平成16年度予算案審議
 (7) 同窓会名簿の発刊について
 (8) 創立80周年記念事業について
 (9) その他
 5. 学校の現況報告 (進学・就職・特別活動・国際交流)
 6. 副会長挨拶
 9月23日 (土) 同窓会関東支部 第21回総会
 12月24日 (金) 同窓会報(第15号) 発行
 平成17年 3月2日 (水) 同窓会入会式



=富山県立氷見高等学校創立80周年記念事業にむけて=



旧正門(万葉植物園内移築)



70周年記念事業「正門」



麗峰会館内の食堂



60周年記念事業「麗峰会館」

総会にて事業内容・委員会組織が決定

母校氷見高校は、平成十八年に創立八十周年を迎えます。人間で言えば「翁寿」にあるこの輝かしい慶賀の年に向けて、九月十八日開催の第三十七回同窓会総会において、その記念事業内容及び実行委員会組織について審議され、

次のとおりに決定されました。

なお、今年度は三年に一度の役員改選の年に当たりその審議がなされました。その結果、会長をはじめ現役員全員の留任に加えて、八十周年記念事業の遂行や今後の同窓会活動の発展のため、新たに六氏の副会長が選出されました。

伊藤 文翁 (23回) 梶 義明 (24回) 矢田部富士雄 (26回)
 吉崎 定夫 (27回) 藤田 栄治 (29回) 池田 裕彦 (32回)

◎記念事業計画内容

1. 同窓会名簿作成 (平成十七年三月発行予定)
2. 環境整備 (麗峰会館の食堂、トイレ、シャワー、電気設備、空調等の改修)
3. 記念式典、記念講演、祝賀会等
4. その他 (海外交流の支援等)

◎事業の実行委員会組織 (副会長が担当)

- | | |
|--|---|
| ・記念事業実行委員会 (事務局長) 石坂 弘 | ・環境整備事業委員会 (委員長) 森越林太郎 (委員) 嶋田 茂 吉崎 定夫 |
| ・名簿作成事業委員会 (委員長) 七徳 満男 (委員) 森 季子 池田 裕彦 | ・記念式典事業委員会 (委員長) 萬谷 健郎 (委員) 西田壽美子 伊藤 文翁 |
| ・募金推進事業委員会 (委員長) 松木 俊一 (委員) 中尾 房美 矢田部富士雄 | ・募金推進事業委員会 (委員) 中尾 房美 土居 治 藤田 栄治 |

◎記念事業募金計画

1. 募金総額 三千万円
2. 募金方法 一口五千円 (一口以上を全同窓会員から募る)
3. 募金期間 平成十七年二月～平成十八年一月

創立六十周年の記念事業として昭和六十一年に竣工された同窓会館「麗峰会館」は、学習、合宿、会合等の各方面で大いに利用されておりますが、今後の後輩たちの更なる有効活用を期すために、一部改修を計画いたしました。創立八十周年記念事業が滞りなく執り行われますよう、ぜひとも会員各位のご支援ご協力を賜りたくお願い申しあげます。

関西支部だより



関西支部会総会 開催月日／平成16年4月18日
場所／大阪・天王寺都ホテル
出席者／永生眞成 氷見高校副校長
中浦 悟 氷見高校教諭
稻積佐一 同窓会会长
滝 清 有機高校同窓会
会員37名・ゲスト6名

① 第20回総会は4月18日天王寺都ホテルで開催しました。ご出席いただいた永生副校長先生・中浦先生・同窓会稻積会長より母校及び同窓会本部の近況の報告と楽しいお話を頂戴しました。20回記念総会を祝い、高校23回卒業のビオラ奏者北村英樹さんとご友人で弦楽四重奏の演奏をしていただき華やかな幕開けとなりました。

来年（平成17年）4月10日には天王寺都ホテルで関西支部会創立20周年記念総会を開催いたします。多数の会員の出席を期待しております。

② 第21回グルメの会は5月16日開催しました。今回は高校22回卒業の安井隆同さん（乗雲寺ご住職）のご協力で茨木市の乗雲寺で“心のグルメ……仏法と旬の味”と銘打つて竹の子と山菜料理をいただきながら楽しい語らいの時をもちました。

③ 関西支部会のユニークな交流の場として毎年会報『雷鳥1号』を発行しております。12月には多彩な情報を網羅して第20号を発行の予定です。

関西支部会事務局長 犬野 稔（高校13回）

関東支部だより



第21回関東支部総会が、10月23日、品川プリンスホテル新館にて行われました。稻積本部会長、母校小幡校長、中浦先生、恩師坂本弘先生、東京富山県人会連合会松田儀則常務理事、東京氷見会本川保之会長、大石辰夫幹事長、北日本新聞社東京支社蒲地誠編集部長のご来賓各位をお迎えし、更に郷里から萬谷本部副会長以下10名の12回生を加えた総勢141名（内、女性41名）の参加でした。

新谷副会長の司会進行で、冒頭、森谷会長より支部報告並びに、平成18年に創立80周年を迎える母校の益々の発展を祈念する旨の挨拶があり、引き続いて会計報告が行われました。次に校長先生から運動部等の活躍状況など母校の現況報告と、今後とも母校の伝統である文武両道をモットーに、我々の期待に応えたいとのご挨拶を頂きました。また、稻積本部会長よりは、80周年記念事業への格段の協力要請がありました。

親睦会は、船木昭二氏（29回）の司会で、相撲協会の甚句師範国錦耕三郎さんによる氷見の名所を盛り込んだ相撲甚句等を、独特の拍子木の音とともに全出席者の「ドスコイ～、ドスコイ～」の掛け声よろしく大いに楽しみました。続いて久保仁氏（19回）司会のbingoゲームでは、豪華景品をゲットの方、またハズレの方と悲喜こもごもとなるも大いに盛り上がりました。その後、全員で校歌を齊唱し、森谷会長と小幡校長とによる万歳三唱のエール交換、穴倉副会長の閉会の言葉で盛会裡に終了となりました。

関東支部副会長 種谷 正（高校12回）

II ただ今活躍中!!

青野 文作氏（高校五回卒）執筆
「実録 越中魂」 北日本新聞好評連載中

本校普通科第五回卒業生で、千葉県在住の経済ジャーナリスト青野文作氏執筆の「実録 越中魂」が今十一月から北日本新聞で連載スタートしました。

明治、大正、昭和と、現在にも増して厳しい時代を生き抜いた郷土の先人たちの闘いにスポットを当て、その熱き越中魂の系譜”を新しい視点から掘り起こしていくのです。千人近くが登場する歴史ドキュメントで、三百回を超える長編連載になります。氏は「地方が頑張らねばならない今、先人たちの強じんな魂の記録は、県民一人ひとりに新しい道を切り開く勇気を与えてくれるはずだ」と語り、それこそ自らの越中魂で、取材に執筆に鋭意打ち込んでおられます。北日本新聞創刊百二十周年企画です。是非読んでいただき、ご声援をお送りください。

麗峰グリーン会

氷見高校を卒業された皆様方におかれましては、さまざまな地域や場面で、ご活躍の事とお慶び申し上げます。さて、麗峰グリーン会は氷見高校OB達によるゴルフコンペを主なイベントとした集まりです。

ゴルフコンペは年二回ゴールデンウイークとお盆の期間に氷見カントリーで行われます。

例年参加者は、約五十名ほどで和気あいあいとやっています。その他に、「富山県高校OB対抗ゴルフ大会」にも出場しています。

県外でご活躍されている方も、この機会に里帰りして懐かしい顔を見においで下さい。皆様のご参加を心よりお待ち致しております。

この会は、初代・坊 明男様 二代目・姫野 貞夫様 三代目・細川 勝行様 現在四代目・鈴谷 広己様の会長のもと、事務局員八名で、ご案内いたしております。詳細につきましては、事務局民宿城山・佐伯 鉄夫また左記、ホームページでも受け付けております。

デンワ ファックス ○七六六一七一二四三一
ホームページアドレス <http://www.e-himi.com/green/>
ホームページアドレス ○七六六一七一二四三一
今後の皆様のご活躍をご祈念申し上げ、ご案内とさせ
ていただきます。

佐伯

鉄夫

着任して

氷見高校教諭 金田 浩人(34回)



勤務していた会社を辞めて教員をしてから、ずっとこの日を待ち望んでいたのです。が、思いもかけずこんなに早く（教員になつて四年目で）実現してしまいました。母校

の教壇、そこは私にとつてのご恩返しの場所であり、自分の原点を確認する場所であり、友との約束を果たすための思い入れの強い場所なのです。

喜び勇んで着任した私を待ち受けていたのは、私の卒業時（二十三年前）と違う制服、新しい体育館の新しい校舎でした。私が一年生時に学んだ木造校舎は取り壊され、旧食堂や、講堂もなくなり、野球部のグラウンドの向きも逆になっていました。もちろんお世話になつた恩師もほとんどおられず、まるで別の学校に来たようでした。ただ、一年次の担任前辺先生がおいでになり、当時劣等生だった私を温かく迎えて下さいました。

しばらくはなんとなく肩身の狭い思いでいたのですが、四月八日の入学式で大好きな校歌を聞いて、やっと「戻ってきたんだな」と実感が湧いてきました。今では生徒とも少しずつ打ち解けて、肩の力も抜けてきたと思っています。これからはもっと自分らしさを出せるようにしていきたいです。

では、教員経験も浅く、大して取り得のない私の自分らしさとは一体何でしょうか？それは一言でいえと教員っぽくない「アホさ」であると考えています。私の高校時代を思い起こせば、生涯の友と出会いい、喧嘩をして、恋をして、本を読み、スポーツをして、悪いことをして先生にいつも叱られていました。そして少しだけ勉強をしました。多感な時期にこの場所で、学校行事を通して力になりに入生の方

この場所で学林行事を通じて幼いながら人生の勉強をしたよう思います。

この甘酸っぱい氷見高校の思い出を、卒業生として文化伝統の継承のため、今の生徒に熱く語ついていきたいのです。時代遅れとまわりから嘲笑されるのも覚悟の上です。まずは校歌、応援歌、凱歌をどうやつたら生徒が覚えてくれるかを思案中です。同窓会の皆様、なにとぞ未熟な私のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、氷見高校同窓会各位の益々のご健勝とご多幸を祈念しております。

平成16年度転出教職員

副校長	國春男	有磯高校（校長）
語	田中	春男
幸塚	良子	高岡西高校へ
保健体育	濱谷	晴美
英語	餘茂田	富山西高校へ
英語	哲朗	志貴野高校へ
家庭	徳前	福岡高校へ
家庭	順子	芳野中学校へ
安居しふぶ	豊原	
棚田	正貴	
語	行雄	
国	井川	伏木高校・高岡高校へ
保健体育	松井	新湊高校へ
事務主任	豊貴	
主任技士	有磯高校へ	
宮崎		

平成16年度転入教職員

副校長	永生 真成	平高校から
語南	広志	高岡西高校から
英語	増岡 陽子	高岡商業高校から
語越前由紀子	伏木 浩人	伏木高校から
語泉	八尾	八尾高校から
森水	千英	砺波工業高校から
健太		
保健体育		
事務主任		
主任技士		
小島 康次		
金子 雅行	富山いづみ高校から	
堀田めぐみ		
石動高校から		

= 70周年記念事業「生徒海外研修費積立」活用行事に参加して =

変わらぬ友情を

水見高校教諭 山端 将介(29回)

私は幸運にも、アメリカ合衆国ニューヨーク州オーチャードパーク・ハイスクール(O P H S)での海外研修に、1996年の試行および、2000年と2004年の3回にわたり参加させていただきました。最初の研修では、日米の文化の違い

ばかりが意識され、2回目は、お互の文化の類似性・共通点の再発見の旅でした。そして今年の3回目の研修では、若い生徒たちが豊かな感受性を持ち、先入観をも柔軟に修正していく適応性を持ち合わせていることに驚かされました。まさに、「百聞は一見にしかず」でした。

生徒達は、ホームステイを通して日本文化との違いを体験し、かえって日本の文化や生活習慣に改めて関心を持ったようでした。自らを見つめ直し、確かな自己理解の上に立って異文化を吸収していく生徒たちを見て、とてもたくましく感じられました。生徒達には、次回OPHSゲストの氷見高校訪問時において、自分が受けた親切を相手にしっかりとお返して、感謝の気持ちを表してもらいたいと思います。この精神こそが草の根交流の国際理解には大切だと思います。

創立70周年記念事業の一環として始まった生徒海外研修も5回を重ね、多くの生徒達に貴重な体験を積ませることに貢献して参りました。願わくば、この生徒海外研修が今後も継続され、両校の国際交流の架け橋となり続けることを期待してやみません。



編集後記

このたびの第15号では、特集として創立80周年記念事業計画を掲載し、カラー印刷にしてみました。新たなる未来に向けて母校への更なるご支援をお願いいたします。